

牡丹亭

ぼたんてい

シネマ
歌舞伎

特別篇

坂東玉三郎 合同公演
中国・昆劇
中国江蘇省蘇州昆劇院

第2部 第1部

舞台篇
『牡丹亭』
2019年5月13日・14日
蘇州科学技術文化センター
ドキュメンタリー篇
玉三郎 16 Days in 蘇州



杜麗娘
坂東玉三郎

中国陶醉!!
アジアの至宝
坂東玉三郎
情と美の極致

撮影/岡本隆史



坂東玉三郎 合同公演
中国・昆劇

シネマ 歌舞伎 特別篇

牡丹亭

ぼたんてい

湯頭 祖作
「還魂記」より
坂東玉三郎 芸術監督
張 継 青 芸術指導

池田智 哉 照明
前田 剛 美術

シネマ歌舞伎とは一

歌舞伎の舞台作品をHD高性能カメラで撮影し、デジタル上映致します。サウンドも、映画館の最新音響設備での再生を前提に、舞台の臨場感の立体的な再現を追求した作りとなっています。今回は、シネマ歌舞伎のノウハウを駆使し、中国・昆劇の舞台作品を映画館で再現します。

第1部 ドキュメンタリー篇
玉三郎 16 Days in 蘇州
第2部 舞台篇
「牡丹亭」
蘇州科学技術文化センター

中国・蘇州での玉三郎&昆劇『牡丹亭』(2009年3月)が、早くも日本のスクリーンへ!!

【解説】日本の歌舞伎よりも長い、六百年という伝統を持つ中国の昆劇。二〇〇八年三月の北京公演に続き、二〇〇九年三月十三日、昆劇のメッカである中国・蘇州で、坂東玉三郎が主役として客演した昆劇『牡丹亭』の上演が遂に実現、それはまさに日中の、いやアジアの文化的歴史の重大事件となりました。前年の北京での台本に三つの場を付け加えた蘇州での公演は大成功、見事な中国語(蘇州語)のせりふと歌を駆使する玉三郎の迫真の演技に、中国の観客は酔いしれ熱狂的な拍手を送ったのです。

中国の多くの人々にとって衝撃的だったのは、中国の伝統劇である昆劇が、日本の歌舞伎の立女形によって新しい命を得たと感じられたことです。中国人が、日本人である玉三郎によって昆劇を再発見したのです。「梅蘭芳(メイランファン)二十世紀前半の京劇の伝説的名優」が昆劇の舞台の上に蘇ったかのように、「玉三郎は、日本だけではなく、もはやアジアの至宝だ。」

公演には中国のメディアが殺到し、翌朝の新聞、テレビはおびただしい数の賛辞で埋まりました。坂東玉三郎は、北京と蘇州の公演を経て、中国でも一気に大スターとなったのです。

この伝説的公演を、日本の観客のみならずには、シネマ歌

舞伎特別篇『牡丹亭』として臨場感あふれる映像と音響にて、いち早く大スクリーンでご覧いただけます。今回は、蘇州科学技術文化芸術センターでの公演だけでなく、蘇州での玉三郎のすべてもカメラにおさめました。第一部(下キメ)と第二部(舞台篇)と第二部(舞台篇)の二部構成でお楽しみいただけます。ご期待下さい!!

【あらすじ】『牡丹亭還魂記』は、明代の劇作家湯頭祖(とうとうそ) (1550~1616)の代表作であり、昆劇を代表する名作です。
南安太守の令嬢杜麗娘は、春のうたたねの夢に柳夢梅(りゅうむせい)という若者と出会います。瞬く間に恋に落ちた二人は、三人の花神たちの祝福の中で結ばれ、歓喜の時を過ごしますが、気がつけばそれらはすべて夢の中の出来事でした。夢の中の恋が忘れられず、柳夢梅への思いは日増しに募り、その思いのあまり杜麗娘は病に罹り、はかなくこの世を去ります。

しかし、二人の愛はそれでは終わりませんでした。そのあと信じられない展開が…。

今回は、前年の北京での「遊園、驚夢、堆花、写真離魂」に、「叫画、幽媾、回生」の三つの場を加え、美と情あふれる玉三郎&昆劇の世界を存分にお楽しみいただけます。



杜麗娘
坂東玉三郎



東 劇 5月30日(土) ~
03-3541-2711

なんばパークスシネマ 6月6日(土) ~
06-6643-3215

ミッドランドスクエアシネマ 2009年
052-527-8808

札幌シネマフロンティア 2009年秋
011-209-5400

MOVIX本牧 2009年
045-625-4766

MOVIX京都 6月13日(土) ~
075-254-3215

福岡中洲大洋 6月27日(土) ~7月17日(金)
092-291-4058

特別鑑賞券¥1,800(税込、当日料金¥2,000均一への処)は各劇場窓口にて順次販売致します。